

東日本支部千葉分科会との意見交換会

実施日時 ⇒ 2014年9月27日(土) 14:40~17:30
場所 ⇒ 千葉県生涯学習センター
参加者 ⇒ NACS東日本支部千葉分科会 9名、
石油連盟 1名、NACS環境委員会 5名、

千葉分科会では、石連の方より、「石油ストーブの保有者」は挙手していただくところから開始し、9名中4名が保有していることを確認して本題に入った。

石油の説明において、2011年の東日本大震災は、全国の分科会でも関心かおり、特に、震災当日、千葉の製油所にて火災が起こり、その映像が全国に流れたため、具体的な事故内容について説明があった。石連によると、「千葉の製油所の火災は、LPGタンクであり、LPGの重さは、水1に対して0.555と大変軽く、当時はタンクの改修工事後、精密検査を実施していたので、タンクを支えている足が折れてタンクが石油管に触れて火事になった。現在、耐震対策を講じている最中である」と、その後の対応状況も説明いただいた。

後半の意見交換では、前半の説明内容にあった日本の石油の備蓄箇所について、紛争時にタンクが攻撃の標的にならないかといった、自然災害とは違った人的災害に対する質問などにも及び、石連より、「現在の備蓄基地は地下備蓄など耐震的には岩盤備蓄で、強度が大きいことが前提の場所にて備蓄している」といった補足説明もあった。

一方、逆説的な視点で、「石油の使用量を減少している中、石油業界としては使用量を増加させた方がよいのか?」といった意見も出され、多種多様な視点での意見交換となった。

最後に、環境委員会に対して、「環境委員会として、石油の使用量を減らした方が良いのか?」や京都議定書に中国とアメリカが入っていないことに対する見解を聞きたいといった環境委員会としての意見や見解を求められ、「石油に依存している生活を見直していきたい」ことを話し合った。

